

写真 吉岡氏所蔵

旧吉田茂邸 再建検討状況説明会

紺碧の海に 緑の映える大磯に



神奈川新聞

発行所 横浜市中区太田町
2-23 郵便番号231
神奈川新聞社
☎045(201)0831
©神奈川新聞社 1988

大磯町町制施行100年

自然と歴史と文化のまち





昔の俳かい道場そのままに復元され、落ち着いたたたずまいの鴨立庵(しきたつあん)

また、明治三十

年代には歌舞伎界のスター、五代目尾上菊五郎が、遊藝の別荘を建て、富士を仰ぎつつ小唄を作っていたという逸話は、いまでも懐かしく語り継がれる。

こんな歴史的風

土を愛する人たちは後世にも続いていく。團地の安田毅彦、高橋誠一郎、文壇の島崎藤村らは昭和に入つて大磯の文化を代表、いずれも名書町民の名を連ねている。

教育・福祉畑で

は、昭和二十三年に「エリザベス・サンタースホーム」を創設、混



吉田 茂



加藤 高明



原 敬



寺内 正毅

政界の「奥座敷」が発端

歴史と変遷

東西七・六キロ、南北二キロにまたがる面積は約十七平方キロ。人口およそ三万人。町としてのいで

たちは、一見、何の変哲もない。しかし、日本最初の海水浴場として脚光を浴びた天然の風光に恵まれ、その自然を愛した明治の元勳・伊藤博文が居を構えるにいたり、明野の名士が後に従った歴史の郷(さと)だ。

さらに戦後は名書町民の第一号となった吉田茂。

政界の大御所が

並ぶことも、財界では三菱の創始者・岩崎亦太郎を皮切りに三井、安田などの雄たちともゆかりが深い。



伊藤 博文



山県 有朋



西園寺 公望



大隈 重信

風光明媚に魅せられて

ける。奥座敷としてこの地名をあけた発端である。伊藤公を筆頭にした歴代総理をたどってみても、山県有朋、西園寺公望、大隈重信、寺内正毅、原敬、加藤高明

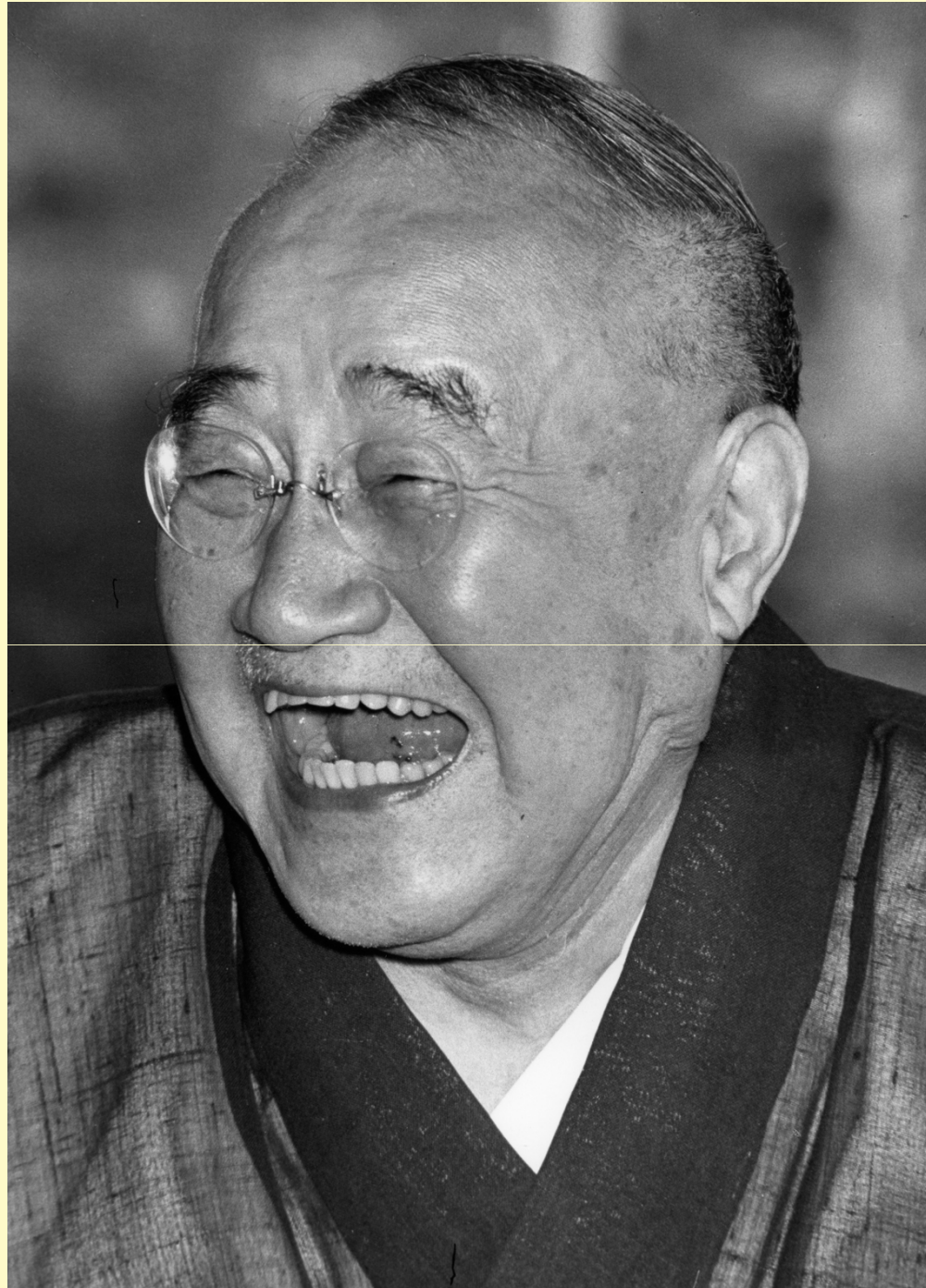


写真
吉岡氏所蔵